

風土記の丘の花だより³²⁰

今、そしてこれから見られる植物(2026年5月10日)

連休半ばの強風は凄まじかったですね。皆さんに被害がなかったことをお祈りいたします。いよいよ「初夏」という言葉がぴったりな新緑が眩しい季節になりました。ツツジも終わり、白い花が目立ってきました。ということで、今回は白い花特集にしましょう。



イボタノキの花が咲いています。モクセイ科の木です。小さくて目立たない花ですが、清楚で美しい花です。ちょっと見つけにくいかもしれませんが、入り口にある大きなクスノキの切り株の東側、池の方の突き当たりに石灯籠があります。その右奥の柵の外にあります。かわった名前ですが、語源にはいろいろな説があるようです。そのなかの一つに「いぼ取りの木」が訛ったものというのがあります。いぼを取る薬効があるのでしょうか。詳しいことは分かりませんが、面白い名前ですね。



2つめの白い花はシャリンバイです。漢字で書くと「車輪梅」、葉が枝に対して円く付くので、それを車輪に例えて名付けられました。名前に「梅」の字がつくので、ウメやサクラなどと同じバラ科の木と想像が付きますね。植物観察初心者の中に、トベラとの区別が難しいという方が多くおられます。でも、花を見ると全く違うことが分かります。ここにはどちらも咲いているので、見比べてみてください。大池と移築民家の間の通路沿いに植えられています。



3つめはマルバウツギの白い花です。卵の花(うのはな)とも呼ばれるウツギより葉が円いことからマルバウツギと名付けられました。ウツギよりは葉も花も小さめです。どちらも少し前まではユキノシタ科でしたが、最近の分類ではアジサイ科となっています。ウツギは漢字で「空木」と書き、枝の中が中空、すなわち「空ろ」になっているからそう呼ばれるようになりました。マルバウツギは本家(?)のウツギより少し早く咲き始めますが、これをご覧になる頃には両方咲いていることでしょう。



最後の白い花はガマズミです。ちょっと独特な臭いが漂っている花です。その臭いにつられて集まってきた虫たちに花粉や花びらを提供するかわりに、受粉を手助けしてもらっているのです。特にハナムグリやカミキリムシの仲間が多く集まり、晴れた日には次から次へと飛来して、観察していても退屈することはありません。今回4種類の白い花を紹介しましたがいかがでしたか？

松下